

シラバス例

齋藤兆史（栃木県宇都宮市）

科目：Composition（90分授業、履修者数20～25名程度を想定）

題目：自分を語る、故郷を語る——発信型英作文のすすめ

目的：この授業では、日本を代表する大学英語教師の手になる英文エッセイを手本とし、自ら自分と故郷との関係に関する英語の作文を書き進めていくことで、発信型英作文の技術を身につけることを目的とする。副次的には、発信型の英語表現を多く学ぶことで、オーラル・コミュニケーションにおける自己表現の仕方も勉強する。

授業計画：毎回教科書の一つのエッセイを参考にしながら、作文のさまざまな要素を学んでいく。最終的に自分の関心事（趣味、学業、家族、友人など）と故郷に関する650語程度の英文エッセイを完成させる。

回	授業内活動	次回に向けた宿題 ＋教師の作業
1	授業の趣旨説明＋事務連絡（15分）、Ch. 1の本文の読解（20分；初回の授業開始時までには本文を読んできるとように指示することができるなら、この時間を短縮させることは可）、グループ／ペアによる Comprehension Questions（以下CQ）をめぐるディスカッションと答え合わせ（10分）、本文の解説とCQの正解の提示（15分）、語句・文・段落など、作文に関わるテキスト要素に関する講義（20分）、習熟度チェックシートへの記入（10分）	学生：Ch. 2の予習（読解＋CQ）、自分の作文のテーマを考えてくる
2	事務連絡（5分）、グループ／ペアによるCQの答え合わせ（5分）、本文の解説とCQの正解の提示（15分）、引用の仕方・情報の提示の仕方・段落構成・主題文・表記法などを、本文に言及しながら解説（20分）、作文	学生：Ch. 3の予習（読解のみ）、英文タイトルと段落構成を考え、それぞれの段

	のテーマの発表と講評・意見交換 (25 分)、既出の重要表現の確認(10 分)、習熟度チェックシートへの記入(10 分)	落の内容を簡単な英語で書いてくる
3	事務連絡 (5 分)、CQ の解答作成 (15 分)、本文の解説と CQ の正解の提示 (15 分)、本文に言及しつつパラグラフ・ライティングに関する講義 (20 分)、グループ／ペアによる英文タイトルと段落構成の確認・意見交換 (25 分)、課題提出+習熟度チェックシートへの記入 (10 分)	学生 : Ch. 4 の予習 (読解+CQ) 教師 : 提出物のチェック
4	事務連絡 (5 分)、グループ／ペアによる CQ の答え合わせ (5 分)、本文の解説と正解の提示 (15 分)、本文に言及しつつ修辞法を解説 (20 分)、提出物に関する講評+返却 (25 分)、既出の重要表現の確認 (10 分)、習熟度チェックシートへの記入 (10 分)	学生 : Ch. 5 の予習 (読解のみ)、エッセイに盛り込むエピソードや内容を段落ごとに簡単な英語で書いてくる
5	事務連絡 (5 分)、CQ の解答作成 (15 分)、本文の解説と CQ の正解の提示 (15 分)、本文に言及しつつ論理構成を解説 (20 分)、グループ／ペアによる提出課題の確認・意見交換 (25 分)、課題提出+習熟度チェックシートへの記入 (10 分)	学生 : Ch. 6 の予習 (読解+CQ) 教師 : 提出物のチェック・添削
6	事務連絡 (5 分)、グループ／ペアによる CQ の答え合わせ (5 分)、本文の解説と CQ の正解の提示 (15 分)、本文に言及しつつ作文技術やレトリックを解説 (20 分)、提出物に関する講評+返却 (25 分)、既出の重要表現の確認(10 分)、習熟度チェックシートへの記入(10 分)	学生 : Ch. 7 の予習 (読解のみ)、段落構成を考えながら、250～300 語の簡単な英語でエッセイの原形を書いてくる
7	事務連絡 (5 分)、CQ の解答作成 (15 分)、本文の解説と CQ の正解の提示 (15 分)、本文に言及しつつテキストの結束性と一貫性について講義 (20 分)、ペアによる提出課題に関する意見交換 (peer review ; 25 分)、課題提出+習熟度チェックシートへの記入 (10 分)	学生 : Ch. 8 の予習 (読解+CQ) 教師 : 提出物のチェック・添削
8	事務連絡 (5 分)、グループ／ペアによる CQ の答え合わせ (5 分)、本文の解説と CQ の正解の提示 (15 分)、本文に言及しつつ全体の構成とメタファーの一貫性に	学生 : Ch. 9 の予習 (読解のみ)、peer review と教師の指摘

	ついて解説 (20 分)、提出物に関する講評+返却 (25 分)、既出の重要表現の確認 (10 分)、習熟度チェックシートへの記入 (10 分)	に基づくエッセイの加筆・修正
9	事務連絡 (5 分)、CQ の解答作成 (15 分)、本文の解説と CQ の正解の提示 (15 分)、本文に言及しつつエッセイの内容の深め方について解説 (20 分)、ペアによる提出課題に関する意見交換 (peer review ; 25 分)、課題提出+習熟度チェックシートへの記入 (10 分)	学生 : Ch. 10 の予習 (読解+CQ) 教師 : 提出物のチェック・添削
10	事務連絡 (5 分)、グループ/ペアによる CQ の答え合わせ (5 分)、本文の解説と CQ の正解の提示 (15 分)、本文に言及しつつ時間に関する表現について解説 (20 分)、提出物に関する講評+返却 (25 分)、既出の重要表現の確認 (10 分)、習熟度チェックシートへの記入 (10 分)	学生 : Ch. 11 の予習 (読解のみ)、peer review と教師の指摘に基づくエッセイの加筆・修正 (350~400 語になるように)
11	事務連絡 (5 分)、CQ の解答作成 (15 分)、本文の解説と CQ の正解の提示 (15 分)、本文に言及しつつ文体的な要素について解説 (20 分)、ペアによる提出課題に関する意見交換 (peer review ; 25 分)、課題提出+習熟度チェックシートへの記入 (10 分)	学生 : Ch. 12 の予習 (読解+CQ) 教師 : 提出物のチェック・添削
12	事務連絡 (5 分)、グループ/ペアによる CQ の答え合わせ (5 分)、本文の解説と CQ の正解の提示 (15 分)、提出物に関する講評、テキスト本文に言及しつつ修正案の提示+返却 (45 分)、既出の重要表現の確認 (10 分)、習熟度チェックシートへの記入 (10 分)	学生 : Ch. 13 の予習 (読解のみ)、peer review と教師の指摘に基づくエッセイの加筆・修正 (500 語程度になるように)
13	事務連絡 (5 分)、CQ の解答作成 (15 分)、本文の解説と CQ の正解の提示 (15 分)、本文に言及しつつ重要表現を解説 (20 分)、ペアによる提出課題に関する意見交換 (peer review ; 25 分)、課題提出+習熟度チェックシートへの記入 (10 分)	学生 : Ch. 14 の予習 (読解+CQ) 教師 : 提出物のチェック・添削
14	事務連絡 (5 分)、グループ/ペアによる CQ の答え合わせ (5 分)、本文の解説と CQ の正解の提示 (15 分)、提出物に関する講評、テキスト本文に言及しつつ修正案の提示+返却 (45 分)、既出の重要表現の確認 (10	学生 : Ch. 15 の予習 (読解のみ)、peer review と教師の指摘に基づくエッセイの

	分)、習熟度チェックシートへの記入 (10分)	加筆・修正 (650 語程度になるように)
15	事務連絡 (5分)、CQの解答作成 (15分)、本文の解説とCQの正解の提示 (15分)、本文に言及しつつ重要表現を解説 (20分)、ペアによる提出課題に関する意見交換 (peer review ; 25分)、課題提出+習熟度チェックシートへの記入 (10分)	教師：提出物のチェック・評価 (できれば、簡単な修正を施し、エッセイ集などを作る)

授業案 (第11回を例に)

授業内活動	時間	活動・指導内容
事務連絡	5分	
CQの解答作成	15分	学生は、62～63ページの本文を参照しながら64～65ページの問題を解く。
本文の解説とCQの正解の提示	15分	まずエッセイ本文の流れを簡単に説明したのち、1～10のそれぞれの問題について、必要に応じて学生とやり取りをしながら、どこを読めば、あるいはどのように考えれば答えが導き出せるかを解説する。
エッセイの文体的要素の解説	20分	以下のような文体的要素を解説する。 (1) 語り手：著者自身が語り手Iとなり、自分と故郷について語っている。 (2) 視点：著者が視点人物である。 (3) 時間の流れ：このエッセイの中には、学内異動になった昨年秋、片付けをされていてラッセル協会会報を見つけた昨日、宇都宮で英語を勉強していた昔、出来事を語っている現在という4つの時点があり、時制や時間表現の使い分けによってそれらを描きわけている。 (4) 話法：最後の段落では、語りの現在の時点からその前日の出来事を語っているが、2文目で直接話法を用い、オチに伝達節をはぶいた自由直接話法を用いることで、会報を見つけたときの気持ちの高まりを表現している。
ペアによる	25分	二人一組になり、家で書いてきたエッセイを交換、それぞれ

提出課題に関する意見交換		れ一読（10分）後、コメントを書き込む（5分）。その後、お互いに口頭で意見を交換する（10分）。
課題提出＋習熟度チェックシートへの記入	10分	それぞれのコメントを書き込んだエッセイを集める。学生は、66ページのリーディング習熟度チェックシートに必要事項を記入する。この時間は、時間配分の調整の意味もあるので、授業が長引いた場合は、チェックシートへの記入は自宅で行なうように指導する。